



筑後置賜署 検索

【お知らせ】 全国地域安全運動期間中の 10 月 10 日に、サザンクス筑後で、筑後警察署が企画した「ニセ電話詐欺被害防止劇」を九州大谷短期大学の学生 10 名が熱演しました。この模様を筑後警察署のホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

最初は多少緊張していた子供たちも、すっかり病院の仕事に興味津々。夏休みの思い出深い体験となったようだ。



現在は職員のお子さんを対象に行っているが、将来は周辺地域にも呼びかけていく予定。一人でも多くの子供たちが医療に興味を持ってくれればと思う。（訪問看護ステーションひめの 看護師：細江 仁美）

この写真は御前岳の西側、源流公園へ行く途中の登山道から撮影したものである。
(黒木町)
松尾 重根



■八女睦句会

着せ替えて菊

八女市本村
立石 範子

翔年大学の絵手紙教室に入っています。「おとつちゃん、おつかしやん」と呼んで育った私のおふくろの味は、煮魚の後の汁で炊いた里いもです。それが懐かしいのか、この時期になると決まって画題にし、今年も又描きました。前の作品と比べても似た様な構図で、少しも上達していません。でも私はそれでいいんです。先生はじめ教室の皆さんがやさしい人ばかりで和やかな雰囲気になんか元気をもらえます。時には食事会があったり、年に一回位、一泊旅行に連れて行ってもらうのも、楽しみです。大坪先生今後共よろしく願ひします。

■八女紫苑句会
 もう一步屈かぬ崖の通草
 かな 中川原篤子
 枯れ薄八十路の嫗招きけ
 り 松延みさと
 大阿蘇のヨナも連れきし
 秋の風 松崎 伸子

■くすの実俳句会
寡黙なる土の生きゐて稲
稔る 吉泉 守峰
黙菊咲く廃校記念碑守る
ごと 松尾まるみ

■八女紫苑句会

山口 弘子

とんぼ
牛島佐智子

穴見ミキエ

音淋し 伊藤 幸子

羽 大坪 栄子

る 城戸 和子
稲刈機を弄む白鷺五十五

美女 松尾 貞義
秋深し生命線をじつと視

菊人形着物に負けぬ美男

着せ替えて菊師一服して

クレス、シー、文芸

100

■立花短歌会
いつまでも歌いつがれる名曲の「荒城の月」友と踊れり
中村サチ子
遠い日に祖母より届いたオルゴール「月の砂漠」の
樋口 愛子
メロディー懐かし
黄の色に咲きし川原の月見草田植えの疲れ癒しくれ
松尾ミサキ
たり
どこまでも青く晴れたる天空に三日月白くかかりて
田中たつじ
いたり
雲間より漏れる中秋の月明かり九条を破る安保法に
橋本 泰州
似る
後鳥羽上皇も見た月なるか島後にて泊まる部屋に差
鶴 隆治郎
し込む名月
名月に一升ますに唐芋を盛り母の伝えし習わし守る
中島 睦美
赤組も白組も児童ら大声援校長先生騎手で出てくる
井上 精
名月ともくせいの香りと虫の音と我が家の庭はいま
野中 裕政
秋さかり

和やかな二人の午後や菊
日和 青木 早弓
道の辺の野菊訪ねて峽に
入る 野崎万智子
秋桜揺らし走るや福祉バ
ス 松尾アサ子
いつ来ても阿蘇野はやさ
し野紺菊 寺田 睦子
天空の城そびえけり秋う
らら 東野 蓉子
蹲の秋海棠や客を待つ
山本 光子

明治時代からの祖母の家を壊すことになった。四年前に百四歳で他界してからは空家だ。既に五人の娘・息子は家を出てそれぞれに暮らしており、祖父は病気で早くに他界し祖母は一人暮らしが長かったものの、茶道・華道の師範として支部長も務め、俳句誌にも名を連ねた。熱心な仏教徒で毎朝仏壇に経をあげるのが日課だった。

取り壊しの前日、ほとんどの家財道具はそのまま。従妹同士で雑魚寝した座敷、親戚皆で素麺を食べた居間、茶道を習った和室、祖母と昼食をとった台所：思い出が一杯詰まった家が明朝には壊される。家の隅から隅までを見渡し、夜になっても離れることができなかった。「志穂ちゃん、最後にこの家を見てあげて」祖母がそう言っているようだった。

どんな嫌なことがあっても感謝を忘れない人だった。いつも「うおかげ、ありがたい」と言う。私は果たして祖母のように全てに感謝して生きていけるだろうか。今の私は、信頼していた人に裏切られ、その人を許せないでいる私だった。

「ありがたい」という言葉なんて遠いところにあった。けれど本当は、その人に支えてもらった時間、もらったものが沢山あったのは事実で、今の自分があるのもその人のおかげ。

夜空を見上げ祖母の家にさようなをしながら、いつか祖母のように「純粋な気持ちで「ありがたい」と言える日が来ることを祈った。森 志穂

お婆ちゃんの家